

2026年12月発売予定

映像で学ぶ 心理学的支援法

全6巻

～カウンセリング・心理療法の基礎～

監修：福島哲夫（大妻女子大学教授）

飲酒運転は、絶対しない！させない！許さない！
NO!
福岡県

●お申し込み・お問い合せは
(映) 有限会社 博映商事
TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220
【飲酒運転撲滅宣言企業】【HP】http://hakuei-shoji.jp 【E-Mail】info@hakuei-shoji.jp

映像で学ぶ心理学的支援法

～カウンセリング・心理療法の基礎～

全6巻

書籍だけでは実感しにくい様々な心理療法やカウンセリングの場面を、映像ならではの演出で初学者にもわかりやすいように提示・解説します。公認心理師養成カリキュラムに準じた内容構成とし、学派を超えてバランスよく心理学的支援の全体像を紹介し、具体的な実践を映像で再現することで理解を深めます。大学の心理学部の講義での使用だけでなく、公認心理師試験対策の自習用としても活用できます。

価格
DVD　各巻：60,000円+税　全6巻：360,000円+税
ストリーミング　全6巻 1年：216,000円+税　3年：432,000円+税

時間　各巻約30分

対象　大学（心理学部、医学部、看護学部、教育学部など）、各種教育機関

DVDと併せてストリーミングサービスでもお求めいただけます！

1 来談者中心アプローチ ～来談者中心療法から エモーション・フォーカスト・セラピー（EFT）まで～ 600V091S

解説・出演 岩壁茂（立命館大学教授）

C.R.ロジャーズが提唱した来談者中心療法を土台とし、感情に直接アプローチする最新の技法までを視覚的に学びます。心理支援の基盤となる「傾聴」と「共感」の姿勢を深く理解し、「無条件の肯定的関心」「共感的理解」「自己一致」という中核条件が、実際の面接室の空気感をどう変えるのかを丁寧に描きます。エモーション・フォーカスト・アプローチ（EFT）の実践では、「エンプティ・チェア（空の椅子）」や「2つの椅子」といったEFT特有の体験的ワークを紹介・解説します。単なる「反射的な傾聴」にとどまらず、防衛的な二次感情（恥など）の下に隠れた、脆弱な一次感情（悲しみや恐れ）へとクライエントを安全に導くプロセスを可視化します。セラピストの微細な声のトーンや身体的同調が、理知的な理解にとどまらず、いかにクライエントの身体感覚も伴った感情変容を促すかを実践的に学ぶことができます。



2 精神分析・精神力動アプローチ ～フロイト・ユングから 加速化体験力動療法（AEDP）まで～ 600V092S

解説 福島哲夫（大妻女子大学教授）　**出演** 山口侑美（みたかカウンセリングオフィス）

フロイトの無意識や防衛機制、ユングの元型といった古典的精神分析の歴史的背景と基本概念を概観し、「転移・逆転移」のメカニズムを解説し、さらに「逆転移の活用」についても説明します。次に短期力動療法から発展した「加速化体験力動療法（AEDP®）」の実践へと焦点を移し、その核心である「孤独を打ち消す（Undoing Aloneness）」を映像で表現し、クライエントの微細な表情の変化や視線をとらえるトラッキングから肯定的な感情体験の兆しを瞬時に捉える手法を提示。さらに、「メタ・プロセシング」の技術を収録し、面接室で今まさに起きている「癒しのプロセス」を提示します。無意識の力動や防衛機制といった伝統的な精神分析の概念から、現代的な愛着理論に基づく感情体験のプロセスまでを体系的に理解できる内容です。



3 動機づけ面接と認知行動療法 600V093S

解説 沢宮容子（東京成徳大学教授・筑波大学名誉教授）　**出演** 加濃正人（祐和会大石クリニック精神科）

本巻では、エビデンス・ベースト・プラクティスの代表格である『動機づけ面接（MI）』および『認知行動療法（CBT）』の実践的アプローチを学びます。MIでは、「協働・受容・思いやり・エンパワメント」というスピリットについて解説した上で、両価性に揺れるクライエントから、基本スキル「OARS（開かれた質問・是認・聞き返し・要約）」を用いて「チェンジトーク（変化に向かう言葉）」を引き出す対話プロセスを提示。続くCBTでは、「CBTモデル」を軸に、効果を発揮するための4つの基本原則――協力、誘導による発見（ソクラテス式質問法）、構造化、事例概念化（ケースフォーミュレーション）――を解説します。CBTは「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える」アプローチ。一時的な症状緩和に留まらず、クライエント自身が「自分自身のカウンセラー」となり、生涯にわたって自らが自らを助ける「セルフヘルプ」の力を育む支援の方法を提示します。



「心理臨床家の養成において大きな価値のある映像教材」

本シリーズは、公認心理師・臨床心理士を目指す学生や大学院生から現場で活躍する心理臨床家まで、幅広く役立つ優れた実践教材です。来談者中心療法・EFT（エモーション・フォーカスト・アプローチ）をはじめ、精神分析・AEDP®（加速化体験力動療法）、認知行動療法・動機づけ面接、トラウマケア、家族・カップル療法、そして統合的アプローチや訪問支援まで、現代の心理臨床を支える主要な理論と最新の技法をデモンストレーション付きで体系的に学べます。

特に素晴らしい点は、単なる理論解説にとどまらず、「実際の面接で技法がどう用いられ、クライエントとどのような相互作用が生じるか」を映像で具体的に体感できることです。セラピストの言葉選びはもちろん、声のトーン、表情、間（ま）、身体的な同調、関係性の変化など、文章だけでは捉えにくい臨床実践の微細なプロセスを視覚的に理解できることは、心理臨床家の養成において大きな価値があります。

また、各巻でそれぞれの技法を紹介するだけでなく、最終的には「アセスメントに基づく技法選択」と「統合的な実践」へとつながる構成も非常に優れています。単に心理療法の知識を得るだけでなく、「クライエントを理解し、関係を築き、状況に応じて考えながら適切に介入する」という臨床家ならではの思考プロセスそのものを学べる教材として、本シリーズを強く推薦いたします。



福島哲夫
（大妻女子大学教授）

4 トラウマケアの心理療法 ～複雑性PTSDのための様々な技法～ 600V094S

解説 福島哲夫（大妻女子大学教授） **出演** 佐藤亜美（成城カウンセリングオフィス）

幼少期からの慢性的な逆境体験に起因し、感情統制の困難や否定的な自己概念を伴う「複雑性PTSD」の概念を解説し、トラウマケアにおける安全で効果的なアセスメントと、心理学的介入について学びます。J.ハーマンの提唱したトラウマケアにおける「三段階モデル」を紹介し、トラウマの未処理な記憶を不用意に刺激し「再トラウマ化」を招く危険性について警鐘を鳴らし、ボトムアップと言われる身体志向のアプローチがいかに重要かを説明します。フラッシュバックや解離症状に対して、グラウンディングや、安全な場所のイメージ法をどのように誘導するかを実演し、クライエントの「耐性の窓」を見極めます。「フラッシュテクニック」や「タッピング」などの技法を活用しながら、過去のトラウマ記憶を語りすぎない形での「二重の気づき」を維持し、過覚醒や低覚醒の波を共に乗り越えていくセラピストの繊細な間合いとペーシングを、リアルな面接風景から学びます。



5 家族療法とカップルセラピー 600V095S

解説・出演 野末武義（明治学院大学教授）

個人の心理的問題や夫婦（カップル）家族の関係性の問題を理解し支援する家族療法の基本的な考え方を概説します。次に、家族ライフサイクル上、夫婦関係の危機が生じやすい、幼い子どもを育てる段階と中高年になり子どもが巣立っていく段階の二つの事例を取り上げて、カップルセラピーの考え方と方法について学びます。セラピストは、問題の認識やセラピーへの動機づけが異なり葛藤状態にある二人それぞれに対して、気持ちや考えを共感的に受け止めて信頼関係を構築し（多方向への肩入れ）、問題を自分とパートナーとの関係性の問題であると認識できるよう働きかけます（戦略的中立性）。また、関係における否定的側面だけでなく、見えにくい肯定的側面を引き出したり（リフレーミング）、二人の関係におけるGive & Takeのバランスに注目し、より公平で親密な関係を築けるよう支援します。個人面接とは異なる合同面接ならではの展開をお示しします。



6 統合的アプローチ ～アセスメントと技法選択から訪問支援まで～ 600V096S

解説 福島哲夫（大妻女子大学教授） **出演** 菊谷翔（家庭教師オルニス）

複雑化する現代の臨床現場で最も求められる、複数モデルを組み合わせる「統合的アプローチ」について実践的に学びます。各技法を闇雲に混ぜ合わせるのではなく、初回面接における多面的なアセスメントから、クライエント固有の「見立て（ケースフォーミュレーション）」を構築し、それに基づいて最も効果的な技法を選択・適用していく一連のプロセスを解説します。さらに、従来の面接室を出て、クライエントの生活空間に直接介入する「アウトリーチ（訪問支援）」も紹介します。クライエントの「生活の場」に入っていく際の特有の倫理的配慮や、柔軟なバウンダリー（境界）の引き方について具体的に解説し、当事者のみならず保護者や教員も支援対象として包摂する、より柔軟な心理学的支援を展開していくための実践力を身につけます。



※現在制作中のため、タイトル・内容などに変更の可能性があります。